

第2－3期の活動計画

重点分野 12：各学科教育の特色（放射線技術科学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座を開催する 	
<p>責任者:放射線技術科学科長 分担者:武藤裕衣（学科教務担当） 事務局:教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生教育用に準備された最新医療機器を使い、臨床現場に則した学内実習を実施し教育内容を充実化する。そのために、計画的な機器の更新・管理運用を行う。令和2年度には、超音波装置2台と無散瞳眼底カメラの更新を計画している。 ・ 本学科では、全国約300施設という日本最大規模の臨床実習指導施設と連携している。学生が希望する地域での質の高い臨床実習を実現するとともに、実習期間中のトラブルを防ぐため、改善点として以下を計画する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 1.2年向けの「病院見学マニュアル」を作成し、全員対象の説明会を開催する。 ② 3年時に臨床実習希望施設調査を行うとともに教員との協議面談等を経て臨床実習指導施設を仮決定する ③ 3年学内実習において、学内教員によりOSCE様の確認試験を導入する。 ④ 臨床実習中、毎日の適度な目標設定とポジティブフィードバックおよびリフレクションを促す独自の「臨床実習ノート（ポートフォリオ）」を作成し、効果的な経験学習を促進する。 ⑤ 臨床実習前学内実習において、医療安全や診療放射線技師の知識向上に資する講義を行う。 ・ 臨床実習報告会を開催し、アクティブラーニングを実践する。
2. 学習支援と向学心の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次より担任制を導入し、個別面談体制を整えているが、成績下位者について、4月に行う面談では学科内で情報共有を行い、クラス担任のみならず教科担当教員からの学習支援を実施する。 ・ 欠席が目立つ学生に対して、授業担当教員（学科教員）と担任教員が情報共有連絡し、学生指導につなげる取り組みを継続する。 ・ 1年後期より開講される専門基礎科目・専門科目において、本学科が目指す専門資格（診療放射線技師国家試験、第一種放射線取扱主任者）の取得を意識した講義を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ガイダンス時に学生に「カリキュラムマップ」に成績を記録するよう指導するとともに、面談等で担任が確認を行い、学習支援を行う。

鈴鹿医療科学大学

<p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験合格率の目標値は95%、入学者あたりの合格率は75%。 ・入学者あたり合格率の目標を達成するため、特に国家試験対象科目の授業において早くから意識付けをし、学習意欲を向上させる。 ・国家試験合格率の目標を達成するために4年進級時に診療放射線技師免許を有している教員が中心となって、国家試験対策を行いその情報を共有し、思いやりある姿勢で教育指導を行う。目標を達成するため以下を計画する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 学科内に国家試験対策委員会を設置し、毎月会議を開催する。 ② 4年後期、週一日、国試対策講義を開講する。 ③ 年8回、学内模擬試験を実施する（学内教員が問題作成し、試験後に対策講義を開催する）。 ④ 模擬試験後の担任個人面談を実施し、生活状況の改善や国家試験学習支援（個人指導）を行う。 ⑤ 模擬試験成績不振者の保護者へ成績通知を行う。 ⑥ 成績不振者に対し、模擬試験終了後、学生自身が作成した解説書をクラス担任が確認し教育指導する。 ⑦ 過年度4年生に対し、特別留年支援制度を活用して、成績の振るわなかった科目の繰り返し履修と国試対策模擬試験を行う。 ⑧ 過年度4年生に対して、教員居室の近くでの自習室を設定するとともに、担任は担当学生の学習進捗状況を面談またはSUMS-POにより把握する。国家試験対策会議にて指導状況を共有し、学習支援を促す。 ・10月以降模擬試験や9月以降国家試験対策講義（放射線科学特論）では、座席を模擬試験成績順（成績下位者から順に前方）に指定席を設定する。
<p>4. 市民公開講座を開催する</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催しない</p>

第2－3期の活動計画

重点分野 12：各学科教育の特色（医療栄養学科・管理栄養学専攻）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療栄養学科内専攻合同演習授業の構築 2. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 3. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 4. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 5. 市民公開講座の実施 	
<p>責任者:医療栄養学科長 分担者:管理栄養学専攻長、三浦俊宏（管理栄養学専攻教務委員） 事務局:教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 臨床検査学専攻との合同演習授業の構築	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本学科が管理栄養学専攻と臨床検査学専攻からなる特徴を生かし、両専攻学生の相互理解を深めて将来の医療人としての見識を広める試みを進める。管理栄養士と臨床検査技師が共に参加するチーム医療である栄養サポートチーム(NST)等を題材にして、両専攻の学生が参加した演習授業を、木曜日1限の活用等により実施する。 2. 学科内の二専攻学生の相互交流を活発にするため、様々な交歓会を企画する。 3. 学科内の両専攻学生が、相互に他の専攻の授業を聴講することを可能としたが選択した学生がなかったことについてのアンケート結果を分析し、実施方法と内容改善を両専攻で検討する。
2. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の学年進行に応じた学習のアウトカムを確認するために、アチーブメントテストを3年生から順次導入し、その活用を図る。3年生学生対象の上記アチーブメントテストを総合演習 II の単位認定に含めることとし、学生の学修習熟度を評価する指標にする。 2. 実習試験の導入と拡大 実習の効果をより可視化し適正な評価を行うために、実習の評価法としてレポートによるだけでなく、実習試験を実施するようになってきた。この方向性を継続拡大し、学生の自主的学習態度の涵養に務める。 3. IR室との連携を基礎にして、学生の教育および生活の問題点を解析し、その解決を図るための検討資料とする。 4. “教育の質保証委員会”を設置して教員がシラバスに沿った教育を進めていることを評価確認し、必要に応じて助言する体制確立をめざす。

鈴鹿医療科学大学

	<p>5. 学科内に教務委員会を立ち上げているので、問題点を両専攻の枠を超えて協議する体制をより充実させる。</p>
<p>3. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1. 学生の将来のキャリアプランニング充実を目的として、卒業生を含む学内外の人を招き、モチベーション向上につながるような授業形式の懇話会／セミナーを計画する。</p> <p>2. 早期導入教育の充実 1年生底力教育を利用して、管理栄養学専攻の立案に基づいて病院や福祉施設での管理栄養士の仕事を見学する機会は新型コロナウイルス問題で状況が見通せないが、正規課程内／外での機会を設けて早期の段階から学生の向学心高揚を目指す。</p> <p>3. リメディアル教育の実効性向上 受験者数減少が進み、入学者の学力レベル低下が懸念されるためリメディアル教育の充実は喫緊の課題である。しかし新型コロナウイルス問題でリメディアル教育は困難であるので、学年担任教員は個人面談を通じて学力に問題がある学生を把握して個別の学習指導も行なってモチベーションを維持させるように指導する。</p> <p>4. グループワークやアクティブラーニングなどをカリキュラムに導入して、学生が相互に学習することで向学心高揚につながるような機会を作る。</p> <p>5. 国家試験対策学習支援の充実 国家試験対策の柱となる模擬試験の結果を常時モニターし、新型コロナウイルス感染流行という困難な環境下でも教員は4年生学生とのコンタクトを取り、学生の学習環境確保に努める。また、成績不振者には補講や個別指導、及び保護者を交えた面談などを行い、従来から進めてきた学生個々に応じた指導をきめ細かく継続する。</p>
<p>4. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1. 2020年度の管理栄養士国家試験合格率の目標は100%とする。また、進路変更学生を除いた入学者あたりの合格率90%を目標とする。</p> <p>2. カリキュラムとして4年前期の総合演習II、及び医療栄養学特別演習で指導を行う。</p> <p>3. 3年生以下の学生も国家試験問題に接する機会が持てるようにして卒業までに求められる学習のアウトカムを早い段階から具体的に意識させる。3年生にも模擬試験受験を可能にするように指導する。</p>
<p>5. 市民公開講座の実施</p>	<p>臨床検査学専攻と連携して、健康と栄養についての理解を広げるために市民公開講座を企画する。</p>

第2－3期の活動計画

重点分野 12：各学科教育の特色（医療栄養学科・臨床検査学専攻）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 管理栄養学専攻と臨床検査学専攻の合同演習授業の構築 2. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 3. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 4. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 5. 市民公開講座の開催 	
<p>責任者:医療栄養学科長／臨床検査学専攻長 分担者:吉子健一（臨床検査学専攻教務委員） 事務局:教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 管理栄養学専攻との合同授業の構築	<ol style="list-style-type: none"> 1. 管理栄養学専攻と臨床検査学専攻からなる特徴を生かした、両専攻学生・教員による合同演習授業の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養指導) 管理栄養学専攻4年生が臨床検査学専攻3年生に対し栄養指導を第2-2期同様に実施する事が、新型コロナウイルス感染症発生のため困難である。よって、被検者であった臨床検査学専攻現4年生へのアンケート調査の実施などにより、第2-2期の成果を詳細に検討し、実施方法などを改善する。 ・ 検査説明) 上記の栄養指導における検討結果を参考に、臨床検査学専4年生が管理栄養学専攻3年生に検査説明を行う演習の具体的実施計画を作成する。 2. 学科内の二専攻学生の相互交流の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生主導で両専攻学生・教員の交歓会を企画する。 3. 両専攻学生が相互に他の専攻の授業を聴講する制度 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2-2期では両専攻共に受講者がなかったことを受けて行なったアンケート調査の分析結果を基に、実施形態の改善を行う。
2. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<ol style="list-style-type: none"> 1. アchievementテスト(学習達成度確認試験)の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ Achievementテスト(学習達成度確認試験)を3年生後期のガイダンスで実施し、その成績を臨床検査医学演習(R-CPCを含む)の成績評価に反映させ、取り組む意欲を高める。 ・ 2年次生への実施に向けて具体的に検討する。 2. IR分析結果の教育改革・改善に向けた利用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の質保証委員会のIR委員とLMS委員を中心に、IR推進室との連携を深め、第2-2期に引き継いで、教育方法の改革・改善に向け

鈴鹿医療科学大学

	<p>た IR の利用について検討を行う。</p> <p>3. 再生医療技術学と同実習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2019 年度より新たに始まった再生医療技術学(3年次)に関し、授業評価等を基に実施方法を改善すると共に、再生医療技術学実習(4年次)を実施する。 <p>4. 臨床検査と臨床病態との関連性に関する教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生後期始め行なうアチーブメントテストの成績を臨床検査医学演習(R-CPCを含む)の成績評価に加えることにより、基礎学力を高め、本授業の質の向上を図る。 ・ 1. の項の「両専攻学生・教員による合同演習授業」の実施に向けて、「病態・検査の分かり易い説明の仕方の修得方法について検討を行う。 <p>5. 新規臨床検査学教育コアカリキュラムに向けた教育改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現時点で公表されている2022年4月の入学生から適用されるコアカリキュラム(案)を基に、現在の教育内容を全体的に検証する。 ・ 第2-2期に引き続き臨床実習前教育の体制作りを進める。 <p>6. 学科教務委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2-2期に引き続き、専攻の教育の質保証委員会は設置(案)に基づく活動を行う。学科教務委員会では関連する課題について専攻を超えて共有しながら解決を図る。
<p>3. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1. 早期臨床体験実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年前期の医療人底力実践(基礎 I)の病院見学が新型コロナウイルス感染症発生のため実施できないので、OB・OG との意見交換の場を設け臨床検査技師としての将来像をイメージさせる。さらに学内での模擬実習について検討する。 <p>2. キャリアプランニング授業の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 木曜日1限等を利用する、学内の教員や外部講師(各種現場で働く臨床検査技師など)による講演を中心とした、キャリアプランニング授業の構築について具体的な検討を行う。 <p>3. 成績不振者に対する面談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 2-2 期に引き継ぎ、1～3年の後期終了時に成績不振者に対し、2者ないし3者面談行を行、IR 推進室の分析報告を活用して、目的意識・学習意欲を高めると共に、学習方法の指導・支援を行う。 <p>4. 学会参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 2-2期に引き継ぎ、3年生後期の臨床検査医学演習の授業に三重県医学検査学会の参加を組み入れて、向学心を高める。 ・ 新型コロナウイルス感染症発生のため開催されない場合は、学内での疑似体験を検討する。
<p>4. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向け</p>	<p>1. 国家試験の現役受験者の合格率</p> <p>臨床検査技師国家試験の現役受験者の合格率目標値を 100%に、入学者(進路変更を除く)あたりの合格率目標値を 90%に設定し、以下の取り組みを行う。</p>

鈴鹿医療科学大学

た教育指導	<ul style="list-style-type: none">・ 成績不振の学生に対しては、補講や面談といった人手による手厚いケアを行い、モチベーションを含めて成績の向上を図る。・ また、定期試験や模試結果の詳細な分析結果に基づき、全教科に共通する効果的な教育法を構築する。・ 成績中位以上の学生に対しては、覚えた知識をアウトプットする訓練を行うツールとして、eラーニングシステムの構築を進める。
5. 市民公開講座の開催	<ul style="list-style-type: none">・ 管理栄養学専攻と連携して、健康と栄養についての理解を広げるために市民公開講座を実施する。・ 新型コロナウイルス感染症発生のため開催できない場合は、次年度に向け、より良い企画となるように検討する。

第2－3期の活動計画

<p>重点分野 12：各学科教育の特色（リハビリテーション学科・理学療法学専攻／理学療法学科）</p>	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の開催 	
<p>責任者:理学療法学科長/理学療法学専攻長 分担者: 事務局:教務課</p>	
<p>2020年度活動計画</p>	
対応する中期計画項目	活動計画内容
<p>1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の流行に伴う学内実習科目、臨床実習科目の教育の質低下への対応 ・指定規則改定に対応する臨床実習カリキュラムの準備
<p>2. 学習支援と向学心の高揚</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の流行に伴う自宅学習中の学生に対する基礎専門科目のe-learningソフトウェアを活用した学習支援 ・自粛期間後、初年次教育における障害者、家族の談話聴講による動機付けを図る。
<p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験合格率の目標値は95%、入学者あたりの合格率は80%とする。 ・定期的な模試の実施と成績不良者に対するフィードバックにより、学生自身に国家試験合格に必要な能力と現状のギャップを認識させる。成績不良者の多くは学習計画、実行、振り返り、再計画の過程全てが不十分なため、全ての過程で助言、指導する。
<p>4. 市民公開講座の開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献の一環として市民公開講座を開催する。 ・テーマは「こどものスポーツとケガの予防」など、地域住民の暮らしと健康に関連したものとする。

第2－3期の活動計画

重点分野 12：各学科教育の特色（リハビリテーション学科・作業療法学専攻）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育内容の充実と教育方法の充実 2. 専門職としての動機付けと向学心の高揚 3. 臨床実習のための準備と臨床実習指導者の育成 4. 市民公開講座の開催 	
<p>責任者:リハビリテーション学科長 分担者:作業療法学専攻長 事務局:教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎専門科目(解剖学, 生理学, 運動学)の到達目標を明示し, 年度末に業者の3科目の模試を試行し, 1年生には授業の学習の到達レベルの確認, 2年生には学習の進行度合いを確認させる。 ・4年間の系統だったカリキュラムと各学年での到達目標を学年ごとにホームルームで確認させる。 ・2年生には, 昨年度の3科目の国家試験の模試の成績を参考にして, グループ分けを行い, それぞれに特別講義を行い, 国家試験の学習する機会を設ける。
2. 専門職としての動機付けと向学心の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス, 特別講師の接待等に学生を参加させ, 今後学ぶべき専門分野, リハビリテーションへの理解を深めさせる。これらの機会を通して教員に協力することにより, 学生の専攻に対する帰属意識を喚起させる。 ・大学祭の専攻企画を学生に自主的に考案させ, 大学祭を通して作業療法の啓蒙活動を行えるように援助する。 ・1年生の学生と2年生の学生との交流会を企画し, 学校生活および専門職の考え方を2年生から1年生に指導させ, 1年生の向学心の育成, 2年生の専門知識の再確認に努める。
3. 臨床実習のための準備と臨床実習指導者の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生に臨床実習の手引きを通して臨床実習のオリエンテーションし, 臨床実習I(見学実習)の準備を行う。 ・1年生には臨床実習の構成と心がけについてホームルームにて指導する。 ・昨年度と同様, 臨床実習指導者講習会を三重県士会と協力して開催し, 臨床実習指導者を育成する。 ・学生に対して臨床実習の準備を学生生活の中で実践できるように指導する。

鈴鹿医療科学大学

<p>4. 市民公開講座の開催</p>	<p>・市民公開講座は昨年度作業療法学専攻が担当したので, 今年度は理学療法学専攻にお願いし, 作業療法学専攻は来年度の開催に向けての準備をする。</p>
---------------------	---

第2－3期の活動計画

重点分野 12：各学科教育の特色（医療福祉学科・医療福祉学専攻）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実践力を備えたソーシャルワーカー養成のための教育内容の充実と教育方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の開催 	
<p>責任者:医療福祉学科長／医療福祉学専攻長 分担者: 事務局:教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法の更なる改善	<p>ソーシャルワーカー（医療ソーシャルワーカー、精神科ソーシャルワーカー、スクールソーシャルワーカー、コミュニティソーシャルワーカー、地域包括支援センターや行政機関のソーシャルワーカー）として活動する人材を育成するため以下のことに取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①悪性新生物等、難病、認知症、各種の疾患、身体障害・知的障害・精神障害を抱える当事者や家族をはじめ、地域の生活困窮者や社会的に孤立している人々を支援するため、アセスメントからモニタリングに至る一連の相談援助プロセスを理解し PDCA サイクルに即して実践できるように、支援に関わる講義科目と演習科目の連携を強化することをとおして、知識と技術の一体化を図る。 ②地域社会とのつながりを重視し、地域包括ケアセンター、日本てんかん協会三重県支部、日本パーキンソン病友の会三重県支部等の当事者会、桜の森白子ホームなどの社会福祉施設におけるボランティア活動等を通して、当事者が抱える福祉ニーズを適切に理解する能力を育み、地域福祉計画や高齢者・障害者・児童などの各分野の福祉計画の立案および評価に参画するなどして、福祉実践の現場と学問とが融合した環境でソーシャルワークの展開を学ぶことができるようにする。 ③多様性を携える当事者・利用者・患者に対して、適切なアセスメント力と実践的なコーディネート力を身に付けたソーシャルワーカーとしての資質を高めるために、ロールプレイングなどアクティブラーニングを可能な限り授業に取り入れる。個々の学生にとって、理解可能な授業関係資料を準備することを心がけるとともに、学生の到達度に応じた学習方法を指導するなど、きめ細やかな対応を心がける。 ④医療福祉現場の具体的な事例の検討、ゼミ単位でのグループ学習、学外学習、社会貢献活動などより、学生の興味の幅を広げるとともに主体的な取り組みと行動力を養う。 ⑤障害学生に対する教育環境の改善に積極的に取り組み、共生社会の実現に貢献できるソーシャルワーカーの養成を目指す。

鈴鹿医療科学大学

<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>学生間の学力の格差を縮めるとともに、学習進度および理解力に応じた丁寧な学習支援を目指し以下のことに取り組む。</p> <p>①国家資格の国家試験指定科目に関して、講義科目についてはテキストと参考文献を用いた予習・復習を推奨するとともに、演習科目については振り返りの復習を強化する。</p> <p>②卒業生や社会人で実際の医療福祉現場で活躍するソーシャルワーカーの講義や、福祉施設・社会福祉協議会での相談援助実習やフィールドワークを通して、ソーシャルワークに対する関心を引き出し、できる限り早い時期から対人援助職のイメージ化を図る。</p> <p>③専門職団体(社会福祉士会・精神保健福祉士協会・医療ソーシャルワーカー協会等)との関わりを深め、多様化し変化していく福祉ニーズをいち早く把握し対応していくあるべきソーシャルワーカーの姿を学べるようにする。</p> <p>④地域における引きこもり、自死、貧困や権利侵害や虐待等に対する敏感な感覚を養い、ボランティアやインフォーマルサービスなどをネットワーク化していく体験を増やす。</p> <p>⑤ICT の活用や学生との個別面談により、学習方法の相談に応じ就学の課題解決に取り組むとともに、成績の伸び悩みを抱える学生については学習意欲の向上にむけて保護者との連携・調整を強化する。</p>
<p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>本学科卒業の第1期生から13期生までの13年間の社会福祉士国家試験の平均合格率は59.1%(全国18.8~30.6%)、精神保健福祉士は本学79.8%(全国56.9~63.3%)であり、全国的にも高水準の合格率となっている。今後もこの水準を維持するため以下のことに取り組む。</p> <p>①社会福祉士国家試験合格率の目標値を70%、精神保健福祉士合格率の目標値を90%とする。</p> <p>②入学者あたりの社会福祉士の合格者を40%、精神保健福祉士の合格者を20%とする。</p> <p>③全国レベルの模擬試験と学内での模擬試験、3年次から、年間おおむね10回実施し、その結果をデータ化し個別面談において学習成果の確認に活かす。</p> <p>④学内教員全員で国家試験対策講座を分担するとともに、東京アカデミーによる補習講座を4年次に実施する。成績の低迷している学生には、個別の学習支援を行う。</p> <p>⑤学生の到達状況について保護者へ通知し、到達度が低く学習意欲の乏しい者には三者面談を実施するなど、保護者の協力を要請する。</p> <p>⑥学生の自主的な国家試験の過去問題への取り組みを促すとともに、日頃から指定科目の授業をしっかりと学習し幅広い知識の獲得に務めるように絶えず働きかけていく。</p>

<p>4. 市民公開講座の開催</p>	<p>①学科(医療福祉学専攻)が主催する市民公開講座に多数の学生の出席を促すとともに、医療ソーシャルワーカー、精神保健福祉士はじめ現場ソーシャルワーカー、地域住民を招待し、学内外の交流の場とする。なお、公開講座の講師には、身体障害者、知的障害者、精神障害者、高齢者、児童、引きこもり、不登校など、いわゆる「社会的弱者」を支援する支援者を招くよう計画立案する。</p> <p>なお、今年度は昨年度コロナウイルスの影響で延期となった戴伸峰講師(台湾国立中正大学教授)、「犯罪と逸脱の心理学：台湾の現状と展望」に市民公開講座を担当していただく予定である。</p>
---------------------	--

第2－3期の活動計画

重点分野 12：各学科教育の特色（医療福祉学科・臨床心理学専攻）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学部教育と大学院教育の連携による学部教育の魅力づくり 2. 大学院教育及びこころの相談センターの地域貢献を充実させる 3. 市民公開講座の開催 	
<p>責任者：医療福祉学科長 分担者：臨床心理学専攻長 事務局：教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 学部教育と大学院教育の連携による学部教育の魅力づくり。	<p>①公認心理師・臨床心理士養成を主とした本専攻では、臨床実践に適った援助姿勢と技法を身につけることと、そのバックボーンとなる様々な理論を学ぶことです。そして、このことが、臨床心理学専攻の特色であり、魅力づくりに繋がります。</p> <p>②学部段階では、当事者の生物・心理・社会的視点から理解するための理論を学び、学部段階で身につけるべき実践能力を身につける必要があります。実践力の基礎となる知識、技術の獲得と支援者としてふさわしい資質の向上を重視し、大学院進学を目安を学生が具体的に認識できるように指援助します。また卒業後すぐに大学院に進学しない学生が、学部教育で学んだことを活かして就職する道筋を具体的に描くことができるようにしていきます。公認心理師試験を意識した講義を行うと共に、教員各自が担当する科目内容を実践に則したものにしていきます。</p> <p>③公認心理師国家試験や臨床心理士試験において、大学院生、学部生による縦の勉強会であるサイコロクラブを発足させました。サイコロクラブは2019年度に、全体会議で1回、各グループでは、延べ約10回開催されました。今年度は、COVID-19の感染予防に注意を払いながら順次開催していく予定です。</p>
2. 大学院教育及びこころの相談センター等の地域貢献を充実させる	<p>①修士論文の作成につきましては、それぞれの論文の内容に即した臨床経験の豊かな教員が指導し、引き続き質の高い修士論文を完成させることができるよう指導していきます。</p> <p>②大学院生は、修士課程修了時には、外部専門相談機関において、専門職員として十分に実践可能な能力を獲得していることが重要な目標になります。教員は彼らの実践力を向上させるためのスーパービジョンを行うことになります。</p> <p>③大学院修士2年生はこころの相談センターにおける1年間の実践の学びにより、実践力の力が向上し、指導教員のスーパービジョンのもとで、各自でクライアントを担当し、カウンセリングを実施する予定です。ただ2020年</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>は COVID-19 の感染拡大のため、カウンセリングの実践が4か月以上中断を余儀なくされましたが、2020 年7月中旬よりカウンセリングを実施する予定です。2020 年度においては、COVID-19 の感染を予防しながらこころの相談センターを運営するという新たな試みを検討し、実行することが課題となっています。</p> <p>④ COVID-19 の感染拡大によるこころの相談センターの一時活動停止はありましたが、地域連携・貢献について、本学こころの相談センターが重要な役割をこれからも果たすことは十分に可能であり、相談依頼件数も高い水準で続いています。鈴鹿市や亀山市など、近隣の教育委員会からの研修依頼にも応じており、地域連携を尊重した地道な活動を続けます。</p> <p>⑤ 本学大学院の修了生がこころの相談センターでの研修やカウンセリングを継続して行うことのできる研修員制度も 2020 年度から始まっており、今後の地域貢献に役立つと期待されます。</p> <p>⑥ 本学の附属施設である、こころのクリニックでは、医療機関としての診療継続の必要性より、COVID-19 の感染流行中も感染予防に最大限の留意をしながら診療を続けていますが、受診患者数は開院以来増え続けています。このことも地域貢献につながっています。こころのクリニックでも大学院生は研修しており、こころのクリニックも本学における臨床実践力の向上に寄与しています。</p>
3. 市民公開講座の開催	2020 年度においては、COVID-19 の感染予防のため自粛する予定です。

第2－3期の活動計画

重点分野 12：各学科教育の特色（鍼灸サイエンス学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の開催 	
<p>責任者:鍼灸サイエンス学科長 分担者:高木久代、浦田繁、斉藤宗則、廖 世新、鈴木 聡、本田達朗、水野海騰、張 文平、長岡伸征、高木 健、瀧本未来 事務局:教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<p>1 授業を含む教育活動のオンライン化の構築 新型コロナウイルス感染症の影響により平素の教育活動が不可能となり、オンライン化が実施されているが、対面授業のような傾聴や習熟度を確保しながらの授業の実現には工夫を要する。実技・実習科目においては更なる工夫が要求される。各教員が習得させるべき事項を再確認し、最大限の創意工夫をもって対処する。</p> <p>2 キャリア教育の充実 ①専門教育「鍼灸への誘い」により、鍼灸師の職業観や将来像涵養を目標として教授する。 ②キャリア教育講演を年1回開催する。 ③キャリアプランを作成させ、個人面談での助言・指導に活かす。(2～4年生)。</p> <p>3 鍼灸スポーツトレーナー学専攻における教育内容の充実 スポーツトレーナー学および資格試験の知識と技術をアウトプットするフィールドワークを実施する。施設および実施内容を検討。</p>
2. 学習支援と向学心の高揚	<p>1 個人面談 学習の状態を細かく聴取して改善法を見つけ出し、反復して面談することによってその実行を促す。常に情報を収集しながら学生とのコミュニケーションを欠かさないようにする。</p> <p>2 意欲向上・交流促進のためのプログラムを計画 通年で開催している球技大会、取穴大会を含め、新型コロナウイルス感染症が落ち着いた頃を見計らって実施を検討。</p>

鈴鹿医療科学大学

<p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1 目標 受験者あたりの合格率 100%、 入学者あたりの合格率 75%を目標とする。</p> <p>2 指導内容 教員が、学生全員を合格に導く熱意と気概を持ち、下記指導を徹底する。 ①1年次より国家試験への危機感を高め、出題傾向を意識した授業を実施する。 ②関連科目の期末試験は、国試過去問題とオリジナル問題で評価する。 ③対策授業の指導を強化し、要点文集を段階的に暗記させ、全て暗記するまで確認試験を繰り返す。 ④成績不振者を月1回の模擬試験の結果から抽出し、対策授業とは別に補講を実施する。補講では毎回、課題を暗記させ、口頭試問によりアウトプットさせる。これを反復学習することにより、習慣と知識を定着させる。 ⑤モチベーション維持・向上のために、定期試験後や補習終了後に個別面談を行い、学生を叱咤激励しながら国家試験まで一緒に取り組む。</p>
<p>4. 市民公開講座</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により開催しない。</p>

第2－3期の活動計画

重点分野 12：各学科教育の特色（臨床工学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および社会の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の実施 5. 学生確保の取り組み 	
<p>責任者:臨床工学科長 分担者: 事務局:教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<ol style="list-style-type: none"> ①大学新入時にEarly exposureを行い、初年次教育の充実を図る。 ②臨床工学科教育の質保証委員会を活用し、カリキュラム等について検討する。 ③4年前期・後期に開講される学科全教員による国家試験対策としての特別演習科目の充実を図る。 ④演習・実習科目においてルーブリックを評価尺度として用い、総合評価に反映させる。 ⑤学修サポートシステムの教員活用を進める。
2. 学習支援と向学心の高揚	<ol style="list-style-type: none"> ①GPAに基づき学習指導計画を図ると共に GPA 上位学生の進路を含めた早期活動の促進を図る。 ②学生へのボランティア活動情報を提供し、自治体が行うイベントへ参加・協力(展示等)を促す。 ③欠席の多い学生に対して、担任から早期に連絡を取り状況を把握する。 ④大学祭における学科発表の支援強化を行う。
3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<ol style="list-style-type: none"> ①新卒学生の 100%合格を目指し、入学者あたりの合格率の目標設定として90%を目指す。 ②合格ラインへの到達に向け、GPA及び模擬試験によるクラス別編成を行い、前期より、自習の義務付け並びに国家試験対策補講出席を促す。 ③各クラス別学生の進捗に対応した国試対策や学修サポートを行う。

鈴鹿医療科学大学

	<p>④国試頻出問題のポイントを指導、必須基本問題を繰り返し行う。</p> <p>⑤各教員が国家試験の専門分野に精通し、国試全体も把握している。</p> <p>⑥国家試験サポートソフトウェアの教員活用を進める。</p> <p>⑦国家試験全国统一模擬試験の3年次からの受験を促し、早期より国家試験への意識を高める。</p>
4. 市民公開講座の実施	<p>①新型コロナウイルス感染症拡大防止のため未定であるが、開催が可能な場合は、医学・工学・生体医工学・臨床工学等に関する市民公開講座を行う。</p>
5. 学生確保の取り組み	<p>①オープンキャンパスでの在校生の参加をすすめ、本学科パンフレットの配布及び臨床工学技士業務についてのDVDや頒布品の配布を行うとともに来場者への説明等を行う。</p> <p>②高校への出張授業や大学紹介及び臨床工学技士紹介イベントへの参加をすすめる。</p> <p>③3年次より就職ガイダンスや各種対策講座への参加を促し就職活動を進める。</p>

第2－3期の活動計画

重点分野 12：各学科教育の特色（医用情報工学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善 2. 学習支援と向学心の高揚 3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の開催 	
<p>責任者:医用情報工学科長 分担者: 事務局:教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<p>■ 医療健康データサイエンス学科に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 改組後に発足する医療健康データサイエンス学科の開始に向けて、新学科で開講する全科目の教育内容とそのレベルに関して、教員間での意識のすり合わせ作業を行う。 2. 人材育成目標、教育方法などについては高校生に周知する。 <p>■ 現学科に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療健康データサイエンス学科は、現学科を包含したより大きな学科であり、教育内容の変更は時代の流れに沿って現学科での教育についても対応すべきものである。上記1の議論を通じて、現在の科目内容を見直し、時代のニーズにより適した形に改める。
2. 学習支援と向学心の高揚	<p>■ 医療健康データサイエンス学科に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新カリキュラムの設計段階で、学生に夢を持たせ、そして育むことを目的とした企画をいくつかの科目の中に組み込んでいる。それを成功裏に動くように、内容の精緻化を図る。 <p>■ 現学科に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 少人数教育を継続する。 2. 資格取得など、目的意識を持たせた教育を継続させる。
3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<p>■ 医療健康データサイエンス学科に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新学科にとっての合格率とは、入試での受験倍率を意味する。 2. 新学科が成功するか否かは、初年度の倍率がいかに高いかにかかっている。高校生にとって魅力的で将来性のある学科であるかをアピールするのに役立つ全ての戦術を試みる。 <p>■ 現学科に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現学科での合格率とは、各種資格試験の合格率である。資格試験科目の目的を、「資格に関連した内容を教育する」から「資格を取得する」としたことにより学生の目的意識に変化が現れ、ITパスポートや診療情報管理士の資格試験の受験者数並びに合格数に改善がみられる。他大学と比較して自慢できるほど高

鈴鹿医療科学大学

	い数値目標を掲げられる状態ではないが、学生への動機づけと意識改革の努力を継続する。
4. 市民公開講座の開催	1. 医療健康データサイエンス学科が認可された時点で、データサイエンスに関して市民公開講座を開催する。

第2－3期の活動計画

重点分野 12：各学科教育の特色（薬学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善と国試合格率の改善 2. 学生支援体制を強化する 3. 研究活動に関する中期目標を定め、特色をもつ研究を進める 4. 市民公開講座を開講し、社会貢献をおこなう 	
<p>責任者:薬学科長 分担者:西田圭吾（学生部委員会）、飯田靖彦（教務部委員会）、三輪高市（国試委員会） 事務局:教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善と国試合格率の改善	<p>低学年から高学年までの学部学生に対する教育体制を充実することにより、個々の学生の学力を向上させ、薬剤師国家試験の高い合格率を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬学教育センターの機能を向上させ、全学年へのリメディアル教育(成績不振学生への支援)を強化して、薬剤師国家試験合格へとつなげる。 ・教務部委員会において、本年度の新型コロナウイルスの感染に対する授業カリキュラムを現行のものからの組み直しも含めて対策する。 ・薬剤師国家試験の評価を対入学者合格率としてその値を向上させることを優先的な目標とする。
2. 学生支援体制を強化する	<p>学習活動支援の充実 新設する薬学教育センター、国家試験・CBT対策委員会、学生部委員会、教務部委員会の協力の下で、留年生、学業成績不振学生、卒業延期学生への支援強化を行う。</p> <p>リメディアル教育の実施 新入学生に対する、リメディアル教育を学科独自で行う。その際にはESS教育システムを効果的に利用し、3年次までに全学生が学習に利用できるようにする。</p> <p>学習環境の整備 新型コロナウイルスの問題を踏まえた上で、自習室の開放とオフィスアワーの設定の回復を行う。</p> <p>学生の学習意欲低下の予防・改善への取組 新型コロナウイルスの感染の問題で、新入生のオリエンテーションを始め、ガイダンスが充分に行われていない状況である。学生との交流が不足している部分を、学生・保護者への手紙や遠隔通信も含めた面談などを行い、</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>しっかりと補完していく。</p> <p>担任制度の充実 担任面談を定期的に行う。また、担任を介した学生および保護者からの意見集約を行う。</p> <p>学年主任制度の導入 担任制度をより充実させるために、学年主任を設け、学科長が学生の状況把握しやすく、学生への介入がしやすい環境を作る。</p> <p>就職支援活動の充実 新型コロナウイルスの感染の問題のために、学生の就職には不利な状態となっているが、積極的にインターシップの案内、就職に関する情報提供などの就職支援を行う。</p>
<p>3. 研究活動に関する中期目標を定め、特色をもつ研究を進める</p>	<p>・科学研究費助成事業に継続的に申請し、選定された先進的な研究課題に積極的に取り組み、その成果を社会に還元するサイクルを有効に機能させる。</p>
<p>4. 市民公開講座を開講し、社会貢献をおこなう</p>	<p>市民公開講座やインターネットを通じて、薬学・医学に関する知識や情報を広く一般の方々に提供することで社会貢献を行う。</p>

第2－3期の活動計画

重点分野 12：各学科教育の特色（看護学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】 2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 2020年度入学定員 100名および新カリキュラム導入のための準備をするとともに、教育内容の充実と教育方法等の改善をはかる。 将来の専門職者としての向学心を育成する。 看護師・保健師国家試験合格率の向上とその達成に向けた教育指導の充実をはかる。 地域の人々が自分らしく生活することを目指して、市民公開講座を開催する。 	
<p>責任者:看護学科長 分担者:中井三智子（教務委員長）、江口秀子（学生委員長） 事務局:教務課</p>	
2020年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 2020年度入学定員 100名および新カリキュラム導入のための準備をするとともに、教育内容の充実と教育方法等の改善をはかる。	<p>①2020年度入学定員 100名になるに当たり、三重県を網羅した臨地実習が適切に実施できる施設等を確保するための準備をするとともに、臨地実習を通して地域性や文化的背景、個人の価値観をふまえた看護実践力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆2021年度2年次基礎看護学実習施設の準備をする。 ◆1年次看護体験実習、2年次基礎看護学実習、3・4年次各看護学臨地実習、4年次統合実習について、病院・施設関係者と連携し、実習目的・目標に照らし合わせた実習を行い、看護実践力を育成する。 <p>②これまでの教育の課題を踏まえて改正した新カリキュラムのすみやかな運用を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆2020年度入学生適用の新カリキュラムについて、決定した進級基準、新旧科目の読み替えや履修登録単位数の上限を実施する。 <p>③入学定員変更に伴う教育環境の整備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆2020年度入学定員 100名になるに当たり、講義室・実習室等の施設・設備や物品の段階的な整備を行う。 <p>④2020年度の新カリキュラムを踏まえ2022年度の新カリキュラムの作成を行い、さらなる教育内容の充実等を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆2022年度新設である地域・在宅看護論と現行カリキュラムを精査し、必要な科目及び授業内容を加える準備を行う。 <p>⑤COVID-19の蔓延により前期の多くの授業がオンラインとなった。アクティブラーニングをより充実させるために、オンライン授業の内容の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆オンライン授業の円滑な運営を実施する。 ◆オンラインでさらに教育内容を充実するために、独自の映像教を作成したり、リアルタイムに学生からのレスポンスを得たりフィードバックする機能を活用する。 ◆感染拡大防止に配慮しつつ、看護専門職として必要な看護技術の

鈴鹿医療科学大学

	<p>習得ができるよう、学内演習環境の整備、演習方法の検討を行いシミュレーターを効果的に活用する。</p>
<p>2. 将来の専門職者としての向学心を育成する。</p>	<p>① 1年次の早期に臨床等で専門の資格を持って活躍する看護職者と接する機会をつくり、将来のビジョンを描く手がかりとする。 ◆2020年度医療人底力実践基礎 I 学科プログラムにおいて企画する。</p> <p>② 初期教育の一環として接遇教育を取り入れ、専門職にふさわしい態度等を学ぶ機会をつくる。 ◆臨地実習直前のマナー講座を 1-3 年生対象に実施し、学生の看護に対するモチベーションを高め、実習施設での看護師からの学生の評価を補完する効果を期待する。 2020年度は COVID-19 の感染予防のため、9月からの臨地実習に向けての 2 年生・3 年生対象のマナー講座は、8月に WEB で実施予定である。1 年生対象のマナー講座については、感染症の拡大状況を踏まえて実施方法は検討予定である。</p> <p>③ 在校生がクラスを超えて交流する機会や卒業生との交流の機会を持ち、クラスや先輩・後輩の一体感・連帯感を育むとともに、4 年間の学修について予測性をもって進めることができるようにする。 ◆2020年度医療人底力実践基礎 I 学科プログラムにおいて、オンライン授業にて、1 年次と 4 年次・卒業生が交流する企画を実施する。 ◆2020年度後期ガイダンス終了後に「3・4 年生臨地実習等情報交換会」を企画し、3 年生と 4 年生がオンラインで交流する機会をつくる。</p> <p>④ 2020 年度から各学年に 3-4 名程度のクラス委員をおき、クラス委員が中心となって、学生交流の活発化や学習環境充実の問題提起等を含め、学生の自発性を伸ばす。</p>
<p>3. 看護師・保健師国家試験合格率の向上とその達成に向けた教育指導の充実をはかる。</p>	<p>COVID-19 の蔓延により対面でのセミナーが困難な状況であるが、オンラインと対面セミナーや個別対応を駆使して 2020 年看護師・保健師合格 100%となった対策を今年度もできるだけ実施し、合格率 100%を目指す。</p> <p>① 1 年次から 4 年次まで、各学年の学修内容にあわせた国家試験対策を計画する。 ◆2020年度 1 年生、2 年生は、月 1 回程度の解剖生理学、病態治療の学修会、3 年生は前期にオンラインによる外部講師による解剖生理学・病態治療のセミナー、後期は実習のない週に実習グループごとに約 4 日の自己学習会、4 年生は定期的なセミナーと 11 月以降ハイリスクグループへの毎週 2 回のセミナーを実施する。 ◆2020年度外部講師によるセミナーを 1 年生から段階的、系統的に実施し、低学年からの系統的な知識の修得と学修の促進を図るとともに、成績不振者への対応を低学年から行う。 ◆4 年次模試の結果から、確実に国家試験に合格できる水準に達成できるよう、11 月初め～1 月末まで少人数のハイリスクグループへの学修支援を強化する。保健師国家試験対策セミナーを実施する。</p> <p>② 国家試験対策を充実したものとするための予算を確保するとともに、保健師国家試験対策の強化を図り、100%の合格率を維持する。 ◆2020年度外部講師予算を確保し、国家試験対策を充実させる。 ◆2020年度保健師国家試験模試を段階的・定期的に実施し、出題の 50%を占める保健統計、疫学、関係法規について、外部講師による集中セミナーを開講する。</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>③学生の自己学修時間や場所の確保等について環境整備をする。</p> <ul style="list-style-type: none">◆2020 年度臨地実習スケジュールをもとに自己学修時間の確保時期を明確にして学生と共有する。◆担任教員による学修状況の確認と学修指導を行う。◆自己学修スペースとしてゼミ室や講義室を確保し、学修環境を整える。 <p>④模試成績不振者への4年早期からの系統的な学習計画と個別対応を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none">◆模試成績不振者には、学生委員と担当教員が連携し、後期には、週に数回の定期的な面談と学習指導を実施する。
4. 地域の人々が自分らしく生活することを目指して、市民公開講座を開催する。	<p>①近隣地域在住の一般市民を対象に、人間・環境・健康・看護に関するテーマで「市民公開講座」を開催する。</p> <ul style="list-style-type: none">◆2019 年度に専任教員が健康と病気の予防、家庭の看護に役立つ内容でテーマを募り、企画していたが、今年度は、COVID-19 の流行と蔓延により中止となった。次年度、今年度担当予定教員による講座を開催する。